

本史は、平成7年に刊行された100年史である「栃木県農業試験場100年のあゆみ」発行後18年が経過した、平成25年秋頃に企画された。12月の運営会議で作成委員会の設置が発議され、運営会議後、早速、第1回の作成委員会が開かれた。平成27年11月の発行を目指し、平成6年度から25年度までの20年間の試験成果等をまとめて後世に残すため編纂することとなった。平成26年2月の第3回作成委員会では、目次や執筆分担、書式等が決定された。本史の基本は記録を残すこととし、記録の中心となる「第2章 試験研究及び各種事業の業績」は各研究室で執筆し、各10ページ以内、全体で120～130ページ程度といったおおまかな構想で進められた。

平成26年10月とされた初稿提出期限には、なかなか原稿が集まらない状況であったが、問題はそれよりも、内容のばらつきであった。書式は、100年史を踏襲することとし作成イメージも示したが、「基本は記録」で「手を余り掛けない」で作成するという了解もあった。このため、成果集の写しというもので現れた。また、ページ数も当初の2倍以上の300ページに膨らんだ。第2章が1.5倍程度になったほか、「第3章の成果の発表等」だけで70ページを超える分量になった。ゼロ予算が前提とされていたため、実際の段階になると印刷の目処が立たない状況となった。平成27年の3月、ここに至って、企画部会で対応を検討することとなった。内容のばらつきの問題は、「記録」の基本に立ち返り、多少「手間を掛け」ても、100年史と同様に各節の冒頭にこの20年間の研究の大きな流れを総括して記載してもらうこととした。研報や成果集、業務年報は記録として100年後でも残るが、その研究が必要とされた研究当時の雰囲気は20、30年後には忘れ去られてしまう。すでにこの20年間の研究の流れを書き残すことは大変骨の折れる作業であったと思う。20年というのは、執筆の中心となった室長達が体験し記憶している限界で、それほど長い期間であると改めて考えさせられた。また、各項目の冒頭にも研究の背景や成果を総括してもらい、研究内容についても単年度成績や成果集のコピペでは無く、研究の構成と流れを考慮し、背景、目的を含めて再構成してもらうこととした。これらの提案を行って開かれた平成27年4月の作成委員会は紛糾したが、なんとか委員（執筆者の中心でもある室長達）に了解してもらい第2稿の作成に入った。

こうして進められた修正稿が揃い、10月には編集作業に入った。研報等の編集委員会のメンバーでそれぞれ第2章を読み、全体の統一を図るため記載方法等の打合せを行った上、委員で分担して最終校正を行うこととした。当初発行予定の11月を過ぎて、校正が終了したのは2月末であった。原稿を印刷に回すための編集作業は、全てK氏に頼った。膨大な労力と時間を要する作業で、編集作業中、常に頭の下がる思いであった。印刷配布については、インターネット時代を考慮して、基本的にホームページにアップすることとしたが、印刷物での要望もあったことから、OB等からの希望部数と最小部数の関係機関配布用に印刷を行うこととした。データファイル原稿の校正無し一発印刷で格安な印刷の体裁となったことを御了解願いたい。

最後に、農試の思い出などをコラムとして執筆頂いたOBの方々に感謝申し上げるとともに、執筆方針の変更など企画部会のぶれのなか原稿を執筆された場職員、そして最後まで質の向上に努められた編集委員及び事務局担当者各位の献身的な努力に謝意を表す。I.F



---

栃木県農業試験場 120 年史

---

発行者 栃木県農業試験場

発行日 平成 28 年 3 月 10 日

編集 「栃木県農業試験場 120 年史」編集委員会

〒320-0002 宇都宮市瓦谷町 1080

Phone 028-665-1241

印刷所 鈴木印刷株式会社

〒321-0901 宇都宮市平出町 3751-11

Phone 028-660-3555

---